

平成30年度第2回 関東地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 議 事 概 要

- 1 開催日時：平成31年3月7日（木） 14時～15時30分
- 2 開催場所：関東地方整備局 14階 災害対策本部室
- 3 出席委員

委員長	池田耕一	立命館大学大学院 経営管理研究科 客員教授
委員	赤松幸夫	弁護士
〃	大野正英	麗澤大学 経済学部 教授
〃	岡本直久	筑波大学 システム情報系 教授
〃	山田務	筑波大学大学院 ビジネスサイエンス系 教授

（委員は五十音順）
- 4 議 事
 - (1) 平成30年度関東地方整備局コンプライアンス推進計画の
取組状況について（中間報告）
 - (2) 平成31年度関東地方整備局コンプライアンス推進計画（案）について

5 議事概要

意見・質問	回 答
(1) 平成30年度関東地方整備局コンプライアンス推進計画の取組状況について（中間報告）	
① 昨年、他省庁の地方支分部局でOBへの不適切な情報提供が問題となったが、そういった事件を踏まえて、整備局として取り組んだことがあれば教えていただきたい。	整備局でも過去に同様の事件があり、いまではオープンスペースで会うことを徹底しており、OBの意識も高くなってきているように感じている。引き続き徹底して参りたい。
② 各事務所において、自主的な取り組みが積極的に行われていると感じるが、コンプライアンスを推進する立場として、気づかれたりしたことはあるかお聞きしたい。	取組状況は各事務所に周知しており、参考にできる取り組みは広がりを見せていると感じている。
③ 講義に直接参加できなかった職員に対するフォローアップについては、やったかどうかだけではなく、どのようにして行われたかを把握したほうがいいのか。	推進本部会議でも同様の指摘を受けており、フォローアップが内容の伴ったものとなるよう、来年度推進計画において、適正業務管理官がフォローアップをサポートする旨を追記したところである。
④ いろいろな講習があるなか、共通して原因分析を説明してほしいという意見があるので、事件の背景の原因分析を反映されたほうがいいのか。	調査報告書に個人的な環境まで記載されていないため、難しい部分もあるが、そういった点も意識して、講習会資料の作成に努めたい。

⑤ パワーポイントを使う、事例研究を行うなど、講習会のスタイルによって、満足度が違って来るように思われるので、その点を事前調整していただきたい。	十分に事前調整して参りたい。
(2) 平成31年度関東地方整備局コンプライアンス推進計画(案)について	
① 行政文書の適正な管理については、コンプライアンスの担当者が主導するのか、業務管理の担当者なのか、体制はどのようになるのか。	推進計画に位置づけられているので、適正業務管理官として、コンプライアンス意識の向上に資するサポートを行って参りたい。
② コンプライアンスの取組に力を入れるほど、講習会に時間を取られるなどの負担増が懸念されるが、働き方改革との整合については、どのように考えているか。	難しい課題ではあるが、より効率的にできるところがないかを再度見直していく必要があると考えている。

【委員からの主な意見】

- ① コンプライアンスに積極的に取り組んでいる事務所長には行事の中で紹介するとか、取り組みを貼り出すといったインセンティブを与えて、元気づけられる仕組みがあればいいのではないか。
- ② 取り組みを増やしていくばかりではなく、やめることも検討した方がいいと思う。アンケートで支持意見が高まっている場合は、漫然と受け入れていることも予想され、注意が必要ではないか。
- ③ コンプライアンス指導者の役割は本業プラスアルファでやることになるので、サポートやインセンティブがないと制度として継続しないのではないか。
- ④ 原因分析のための詳細な情報を手に入れることが難しいということであれば、どういう刑事罰、懲戒処分が下った、不祥事を起こさなかった場合と比べて退職金あるいは年金にこれだけの差がついたという結果を示すことも1つの方法ではないか。

以上